

最後に、私は、福島原発事故は広島・長崎・第五福竜丸に次ぐ「4 度目の核惨事」であると思っています。

福島原発事故において、放射線障害を見るときは総量を見なければなりません。東京大学アイソトープ総合センターで総量を計算したところ、熱量からの計算では広島原爆の 29.6 個分に相当するものが漏出し、ウラン換算では 20 個分のものが漏出しています。さらに恐るべきことには、原爆による放射線の残存量と原発から放出されたものの放射線の残存量は 1 年に至って、原爆が 1000 分の 1 に低下するのに対して、原発からの放射線汚染物は 10 分の 1 程度にしかありません。つまり、ウラン換算で 20 個分、残存量が 100 倍も高いのであれば単純計算で広島原爆 2000 個分の放射線汚染物をチェリノブイリと同様、広く地球に拡散していることになります。

これらのことは、2011 年に英国の科学誌ネイチャーが科学界「今年の 10 人」に選んだ東京大学先端科学技術研究センター教授で東京大学アイソトープ総合センター長でもある児玉龍彦医学博士が、2011 年 7 月 27 日に行われた衆議院厚生労働委員会において、国の原発対応に満身の怒りをこめて参考人陳述をされたのですが、東京電力と政府からの公表も無ければ、新聞・テレビで報道もされておられません。こうした、生命にかかわる真実は正しく国民に知らせるべきではないでしょうか。

また、先月 20 日東京電力は、福島第一原発の汚水をためたタンクから高濃度の汚染水が 100 トン漏れており、その警報が出ていたにもかかわらず、適切な対応を取らなかったことを発表しています。昨年 8 月に 300 トン漏れたのに次ぐ大量漏出です。海への流出は無いと言っていますが、土壌を通して海に流れるのは必至です。汚染水の放射線量を調べると、ベータ線で毎時 50 ミリシーベルト、ガンマ線で 0.15 ミリシーベルトと高く、雨どいの水を測ったところ、放射性ストロンチウム 90 などベータ線を出す放射性物質が 1 リットルあたり 2 億 3 千万ベクレル検出されたということです。ストロンチウム 90 の原発外放出の法定上限は 1 リットルあたり 30 ベクレルなので、実に 800 万倍もの高濃度になっています。すべてがこれほどの高濃度ではないにしても、福島第一原発にはすでに 1,000 基を超えるタンクが林立し、今でも 43 万トンもの汚染水が溜まっています。

このように、事故から 3 年経っても放射能汚染の拡散は留まるところを知りませんが、これだけ大きな原発事故を起こしながら、いつ巨大地震が起きてもおかしくないという危険期に入っている日本で、政府は 2 月 25 日、原子力関係閣僚会議を開いて、原子力発電を時間帯にかかわらず、一定の電力を供給する「重要なベースロード電源」と位置づけるとともに、安全基準に適合すると認められた原発の再稼働を進めることなどを盛り込んだ新たな「エネルギー基本計画

案」を決定しました。このことは、原発は将来においても必須の電源だと宣言したことになります。

もし、東京五輪開催中に巨大地震による更なる原発事故が起きたとしたら世界に対してどのような責任が取れるというのでしょうか。

平和都市宣言をしている港区としては、平和事業の一環として、今後は戦争の悲惨さだけではなく、福島原発事故による放射能汚染の実態もあわせて区民に公表すべきだと思います。

また、東京新聞によると、原発事故を起こした東京電力は、海外の発電事業に投資して得た利益を少なくとも 2 億ドル（約 210 億円）を免税制度のあるオランダに蓄積し、日本で納税しないままとなっています。国費一兆円を投じて、実質国有化された東京電力に対する公的支援は、現在でも終わりが見えず、昨年末には除染のために 3 兆 6,000 億円の国費負担も決定し、料金値上げで利用者負担も増えています。

こうした裏側で、東京電力は海外で蓄積した利益を温存し、負担のツケを国民に回すなどあってはならないことではないでしょうか。